

# アキスペ

## —これからの一人暮らしの在り方を考える—

志方 仁美

〔指導教員：武庫川女子大学准教授 鎌田 誠史〕

キーワード：新たな暮らし，商店街，地域と関わり，多様性

### 1. 研究の背景

新しい土地や環境での生活に不安や寂しさを感じる人は少なくはないだろう。マイナビのアンケートによると「一人暮らしをしていて寂しいと感じたことはあるか」という質問に対し約7割の人が「ある」と答えた。病気するとき、一人ご飯を食べるとき、災害のときなど理由は様々である。自身も大学進学を機に地元を離れ、一人暮らしを始めたことで同じような感情を抱いたことがあった。その要因のひとつとして地元にいる頃と比べ、地域との関わりが減ったと感じたことが挙げられる。周りにも同じような経験をしている友人達がおり、話を聞いたところ「祭りなどのイベントを見ると参加して地域の人と関わりたい」、「関わりたいが具体的な方法がわからない」という意見が得られた。

また、近年は「暮らしかた」が多様になってきている。その一つに特定の生活拠点を持たずに国内外を移動しながらホテルや旅館で暮らしつつ仕事をするアドレスホッパーという暮らし方があるということを知った。他にも商店街に宿泊施設を分散させるという新しいホテル像を持った「SEKAI HOTEL」の存在を知ったことで、これまでの毎日同じ拠点を中心に生活や仕事をする多様な暮らしかたがあってもいいのではないだろうか、と考えるようになった。これらの背景を踏まえ、地域と関わりを持ちつつ寂しくならないような「新しい暮らしかた」を提案したいと考えた。

### 2. 本研究の目的

本研究では、従来の固定化された暮らしかたと生活拠点を持たない暮らしかたの両者を繋ぐ「新しい暮らしかた」をデザインすることを目的とする。また、地域のエリア内で生活拠点を移動させながら暮らすことで地域とほどよい距離感を保ちながら寂しくならない暮らしかたを提案する。

### 3. 方法

先進的な事例である「SEKAI HOTEL」「アドレスホッパー」「akippa」から仕組みや特徴を、「尾道空き家再生プロジェクト」から暮らしかたや情報発信ツールについて調査し、そこから学んだことを自身の提案に取り入れる。また、尼崎の三和本通商店街と東大阪の布施本町商店街にて現地調査を行う。上記のことを踏まえた上で、人がひとりで生活できるスペースについて考え、暮らしぶりがわかるイラストや空間の提案をし、目的を達成する。

### 4. 敷地

兵庫県尼崎市三和本通商店街周辺

阪神尼崎駅から西に徒歩3分に位置するこの商店街は、東西南北にアーケードが広がっている。選定した理由は、生活に必要な「衣」「食」が揃っていることや、駅から近くアクセスがいいことが挙げられる。また、家賃については今後拠点を持つ暮らしかた（マンションやアパートを借りる）になったときのことを考慮し、敷地をここにすることにした。

### 5. 提案

#### 5-1 概要

住み慣れた土地や地元を離れ、新たなまちで一人暮らしを始める際の暮らしかたを提案する。様々な暮らしかたがある現在、生活拠点が固定された暮らしと生活拠点を持たない暮らしとの間の仕組みをデザインし、その暮らしの中で疎遠になりつつある地域との関わり方を見つめ直しお互いが程よい距離感で接することができるように空間を考える。

#### 5-2 アキスペとは

「アキスペ」とは慣れないまちでの一人暮らしをサポートしてくれる組織、提案する暮らしかたを筆者が命名したものである。アキスペは、まちに一つ拠点（事務所）を持っており、そこでは利用者や身の回りの管理や安心して暮らせるようにサポートを行う（図1）。提案する暮らしかたをまちの空いている土地やスペースを使うことから空いているスペースの活用＝「アキスペ」と名付けた。

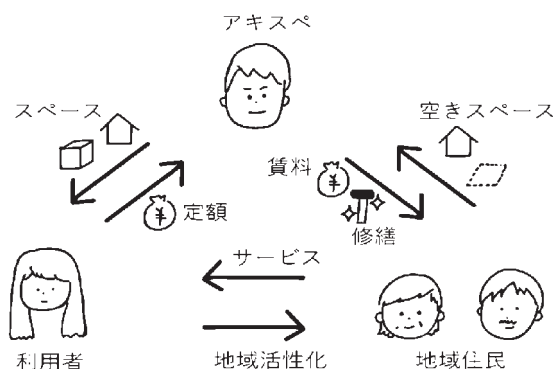


図1 「アキスペ」の仕組み

#### 5-3 空間の提案

商店街の空き店舗や住宅の使われていない部屋や階をアキスペに登録してもらう。対象敷地の三和本通商店街には高齢の方が夫婦や一人でお店をしているのが多く、お互い気配を感じながら生活することで安心感が得られると考える。また、建物と建物の隙間にコンテナハウスやトレーラーハウスなどの移動可能な生活スペースを入れる（図2）（図3）。

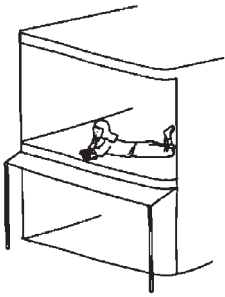


図2 商店街の空き店舗・階

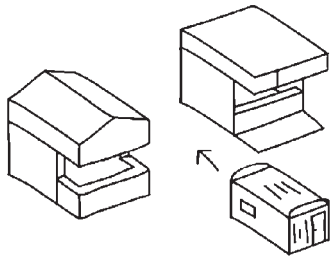


図3 建物の隙間

#### 5-4 仕組みの提案

アキスペで暮らすことをきめた利用者はホームページなどから申し込みをする。引っ越しは家具家電を購入する必要がないため衣類など身の回りのものだけをアキスペの事務所に運ぶ。利用者は持ち歩かない荷物を拠点に置いた後、まちに繰り出していく。普段通りに仕事や学校に向かい、終われば今日の自分が過ごすスペースを決める。まちにはスペースが至る所に点在しており自分の好きなところに行くことができる。スペースの空き情報や自分の今日の拠点はアキスペのアプリを通じてやり取りをする。気に入ったスペースがあれば1週間であれば滞在できるルールとする。まちでの新たな発見や出会いを求めて積極的にスペースを移動させる。また、アキスペの利用者には商店街や周りのお店で特典を受けることができるカードと暮らしかたの手帳が渡され、それらを使ってまちでの生活を楽しんでもらう。同時に専用のアプリへログインでき、そこにはまちの情報やスペースの空き情報など事務所に立ち寄らずに解決できるようなコンテンツが盛り込まれている（図4）。

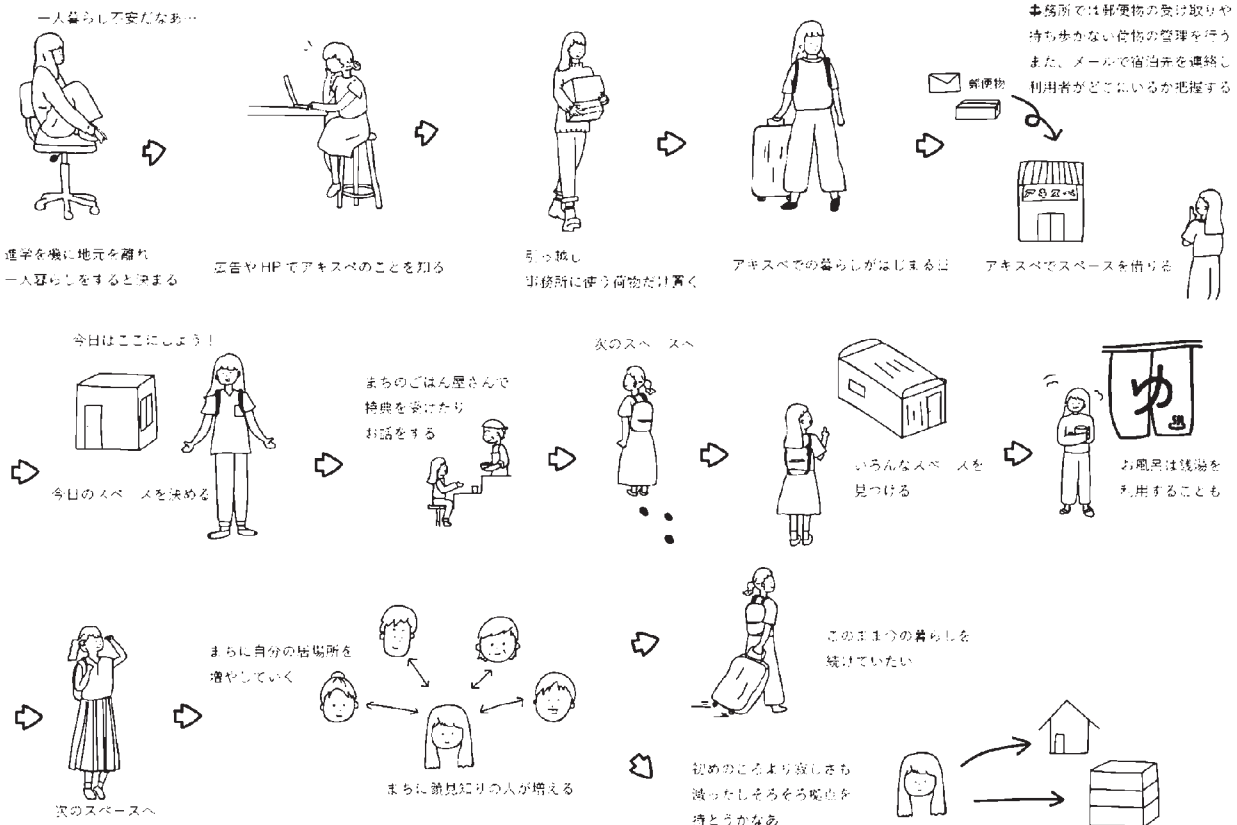


図4 暮らしかたの仕組み図

地域の人に助けられながら、でも時々一人でいられる時間もありつつ、新しいまちでの生活を続け、慣れてきたらマンションやアパートなどの拠点を持つ暮らしかたに変化していくことも良い。仮にその暮らし方を選んだとしてもこれまでと同じように地域に関わりながら過ごすことができたら良い。ただし、筆者が提案する暮らし方を強制するというわけではなく、柔軟に変化する新しい暮らし方があってもいいのではないかと考えて提案を行うものである。

#### 5-5 暮らしかたの手帳

利用者に渡されるこの手帳にはアキスペでの暮らしかたや特典が受けられるお店などがイラストで描かれている。

#### 参考文献

- 1) 平成26年度学生生活調査（JASSO）  
[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei\\_chosa/2014.html](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_chosa/2014.html) (2019/12/17)
- 2) マイナビ  
<https://woman.mynavi.jp/article/170626-20/> (2019/12/15)
- 3) SEKAI HOTEL  
<https://www.sekaihotel.jp/> (2019/12/15)
- 4) akippa株式会社  
<https://akippa.co.jp/> (2019/12/6)
- 5) 尾道移住ポータル  
<http://onomichi-ijuportal.jp/> (2019/12/6)
- 6) Derek Diedricksen：マイクロシェルター -自分で作れる快適な小屋、ツリーハウス、トレーラーハウス、オライリー・ジャパン、2017